

## 書評「『幻の鳥』オオトラツグミはキョローンと鳴く」

亀谷辰朗\*

水田 拓 (著) 東海大学出版部 2016年12月 220頁, 口絵+目次18頁  
定価2000円+税 ISBN: 978-4-486-02118-6



本書は、主に若手の研究者が自身のこれまでの研究人生と内容について紹介する「フィールドの生物学」シリーズの23冊目に当たる。全5章のうち、題名にあるオオトラツグミに関する章は第4章と第5章で、残りは鳥の研究を始めるまでと静岡でサンコウチョウを調査した第1章、タイでカワリサンコウチョウを研究した第2章、マダガスカルサンコウチョウについての第3章という構成である。あとがきによると、オオトラツグミだけで1冊の本にするには内容が足りなかったそうで、著者が奄美大島に来る前に行った、オオトラツグミ以外の鳥についての研究内容も含まれている。著者はこのことを、「……タイトルとこの中身のずれについて、『羊頭狗肉』ととるか『一粒で二度おいしい』ととるかは、読者の判断に任せたい。……」と綴っている。評者の感想は後者であった。サンコウチョウ以外の2種は、名のとおりサンコウチョウと同属の別種で、サンコウチョウと異なり、雄に白色型と赤色型の色彩二型があるのが特徴である。これらの鳥について書かれた前半も、後半に負けず劣らず楽しく読めた。

さて、書店店頭で本書を見つけたとき、評者の関心は、オオトラツグミの分類について触れられているかどうかにあった。ばらばらとめくって分類に関する記述があるのを確認し、その足でレジへと向かった。日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)では、オオトラツグミはトラツグミ *Zoothera dauma* の1亜種 *Z. d. major* とされている。鳥類の分類に関心のある方なら、本書を読まずとも、オオトラツグミを独立種 *Z. major* とする説があることをご存じだろう。日本で過去に出版された図鑑にも、オオトラツグミを独立種としているものがある(真木・大西2000, NPO法人奄美野鳥の会2009)。しかし、オオトラツグミの分類には、九州以北の日本を含むユーラシア北部で繁殖する亜種トラツグミ *Z. d. aurea* との関係だけでなく、ヒマラヤ西部からインドシナ北部に分布する基亜種 *Z. d. dauma* との関係はどう考えるかという問題がある。基亜種のさえずりは亜種トラツグミよりもオオトラツグミ

に似ており、本書によれば、尾羽の枚数もオオトラグミ同様12枚であるという（亜種トラグミは14枚）。オオトラグミのみを独立種とすればそれでよし、ということにはならない。その意味で評者は、オオトラグミと亜種トラグミを同種とした日本鳥学会（2012）の見解は一理あると考えた。評者は単なる、分類に関心がある一バンダナーに過ぎないが、著者も本書では日本鳥学会（2012）に従い、オオトラグミを亜種トラグミと同種であると考えており、我が意を得たりという気持ちになった。2009年に記載された西表島固有の亜種、コトラグミ *Z. d. iriomotensis* についての記述もある。また、従来コトラグミとされていた鳥が台湾に分布していることにもページが割かれている。

言うまでもなく、分類以外の記述も多い。むしろ、生態に関する内容が大部分を占める。著者は2006年に奄美大島に移住し、環境省の保護増殖事業でオオトラグミを担当することとなった。当時、オオトラグミは本当に「幻の鳥」と言ってもいい存在で、生態はほとんど何もわかっていなかった。著者はそれまでの研究で培った手法で、オオトラグミの生態をだんだんと明らかにしていく。奄美大島では地元のNPO法人、奄美野鳥の会により1990年代からオオトラグミの個体数調査が行われており、協力して調査を進める様子も語られる。題名に「幻の鳥」とかぎかっこがついている理由は、本書を最後まで読むと明らかになる。著者は本書の読者を、「研究の世界に憧れつつも、自分がそこでやっていけるのか不安に思っている若者」（あとがきより）と想定したという。そのため、本文はともわかりやすい。物足りなく思ったのは、オオトラグミとトラグミの識別点（梶田・川路1997、高ら1999）について触れられていないことであるが、これは何か理由があるのかもしれない。シリーズに共通する豊富なコラムも楽しい。終わりの方で、著者はオオトラグミを守ることにどのような意味があるのかを考える。オオトラグミを守る必要はあるのか、それともないのか？評者が最も感動した箇所である。答えはぜひ自分で確かめてほしい。

本会会員は当然、鳥類に対する相当高い関心のある人だろう。そういう人が、本書を読んで損はないと断言できる。オオトラグミについて、本書よりも詳しく書かれた書物は現在ほかにないはずである。そういう意味でも、本書は読む価値のある一冊と言える。本会会員に限らず、鳥類に少しでも関心のある人は、昼食代を多少削ってでも、妻帯者なら女房を質に入れてでも（そこまでなくても買えるが）一読をお勧めする。B6判並製、200頁少々で税抜2000円は、正直少々高いかもしれない。しかし、それは著者の責任ではない。

### 引用文献（本書が引用しているものを除く）

- 梶田 学・川路則友 1997. トラグミ *Zoothera dauma* の亜種 *Z. d. aurea* と亜種オオトラグミ *Z. d. major* の識別について. 1997年度日本鳥類標識協会大会. 鳥類標識誌 12 (1): 13-14.
- 真木広造・大西敏一 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- NPO法人奄美野鳥の会（編）2009. 奄美の野鳥図鑑. 文一総合出版, 東京.
- 高美喜男・川口和範・石田 健 1999. オオトラグミ *Zoothera (dauma) major* とトラグミ *Z. d. aurea* の保護個体の形態およびオオトラグミの保護対策への付言. *Strix* 17: 191-196.